

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第6号 花き

発行日 平成26年 8月28日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 共通 排水対策、病虫害防除を徹底し、良品の出荷に努めましょう。
- ◆ りんどう 収穫後、翌年に向けた管理を徹底しましょう。
- ◆ 小ぎく 健全な親株を確保・養成しましょう。
- ◆ 施設花き 施設の風通しなどの環境管理に注意しましょう。

## りんどう

### 1 生育概況

早生種は平年並からやや早い開花となった地域が多く、概ね盆需要期に出荷となりました。現在、中生種が開花期となっており、一部地域では晩生種の開花も始まっています。

病虫害では黒斑病、灰色かび病など病害の発生が増えています。また、ハダニ類、アザミウマ類、リンドウホソハマキの発生も続いています。今後の重要病害となる花腐菌核病は、県北部で子実体(きのこ)の発生が始まっています。今後の各地域の防除情報を参考に防除を開始してください。

### 2 圃場管理

圃場の過湿が原因とみられる病害や根腐れ症状の発生が見られています。今後も水路などからの水の流入を防止するとともに、長時間滞水しないよう排水路の点検を行うなど排水対策を徹底してください。

また、乾燥気味の場合には、極度に乾燥する前に通路等に灌水します。ただし、長時間水を溜めることや高温時の灌水は避けてください。

### 3 病虫害防除

#### (1) 花腐菌核病

菌核にできた子実体(きのこ)から胞子が飛散し、花卉に付着して感染しますが、気温の低下に伴い、冷涼地から胞子の飛散が始まります。県北部では8月下旬から子実体(きのこ)の発生が確認されています。

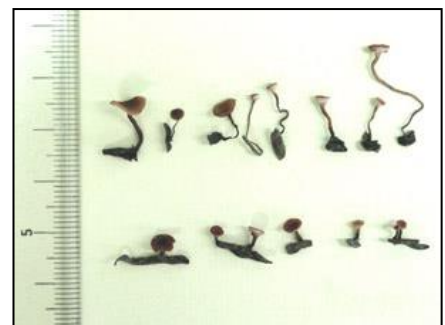
これから開花する品種については、各地域での防除情報を参考に適用薬剤での防除を開始してください。



花腐菌核病被害花  
(写真1a)



株元に形成された子実体  
(写真1b)



菌核上に形成された子実体  
(写真1c)

## (2) 葉枯病

今年の発生は少なめですが、一部上位葉での発生がみられ始めています。秋季にも拡大する場合がありますので、今後収穫する品種と併せ、収穫終了した品種も防除を継続します。

## (3) 黒斑病

盆以降、各地域で発生が増えています。葉表面の傷口から容易に感染しますので、効果のある薬剤を発病前から9月中旬にかけて散布し予防してください。

## (4) ハダニ類

各地域で発生が続いており、上位葉への寄生も見られています。気温の低下に伴い発生は減少しますが、9月中旬頃には越冬成虫が現れはじめ防除効果が低下する(農薬が効きにくくなる)ため、9月上旬までにハダニの密度を下げるように防除を徹底します。葉裏へ十分薬剤が付着するように薬剤散布を行います。

## (5) アザミウマ類

収穫後の残花で増え、多発している圃場がみられます。蕾が着色する頃から寄生して花の内部で増殖するので、その時期から防除を徹底し、収穫後の残花の着いた茎部分を折り取ります。圃場周辺の作物や雑草の防除も併せて実施します。

## (6) リンドウホソハマキ

現在も発生が続いています。被害がみられている圃場では防除を継続するほか、被害茎の折り取りを徹底します。また、定植株への被害も見られますので採花年株とあわせて継続して防除します。

## (7) オオタバコガ

発生は少ない状況ですが、一部の地域では花蕾の食害がみられています。圃場をよく観察し、発生がみられる場合は効果のある薬剤を選択し防除してください。

## 4 収穫後の管理

(1) 早生・中生種では、生育の状況により収穫後に窒素成分で3~5kg(10aあたり)を追肥し、株養成に努めます。

(2) 収穫後の圃場では防除が手薄になり病虫害が多発する場合があります。翌年の発生源となるので、収穫後も防除を継続してください。収穫後の薬剤は葉の汚れへの配慮は不要なのでコスト低減も考慮して選定してください。

(3) 害虫や花腐菌核病の防除のため、残花のある茎部分を折り取ってください。この作業は株養成のためにも効果的です。また、定植年の株でも開花しますので、できるだけ花を摘み取ります。

## 小ぎく

### 1 生育概況

8月咲き品種は若干開花が早まりましたが、概ね需要期の出荷となりました。9月咲き品種は草丈、ボリュームとも良好な生育となっている地域が多く、蕾の肥大、開花も順調に進んでいます。

病虫害では白さび病、ハダニ類、オオタバコガが増えているほか、アブラムシ類の発生も続いています。オオタバコガのフェロモントラップ調査では、全県的に捕殺が確認され8月以降増加しています。各地域の防除情報を参考に防除を徹底してください。

### 2 灌水

キクの根は過湿に弱く、多湿条件下では生育障害が発生します。降雨が続くような場合、長時間圃場に滞水しないよう排水対策を行ってください。

一方、圃場が乾燥している場合、品質低下や蕾の発達が遅れる原因となりますので、適宜灌水を実施します。ただし、長時間水を溜めることや高温時の灌水は避けてください。

### 3 病虫害防除

#### (1) 白さび病

降雨が多く発生が増えています。5～7日間隔で薬剤散布し予防することが基本ですが、既に発生がみられている圃場や降雨が続く場合は、散布間隔を狭めて防除してください。

#### (2) オオタバコガ

7月下旬から県内各地で9月咲き品種で食害が確認されています。8月以降も発生が増加していますので、これまでどおり各地域の防除ごよみや防除情報を参考に防除を徹底してください。

#### (3) その他

ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類の発生もみられていますので、防除を継続します。

### 4 母株選抜・養成

翌年採穂用の母株は、収穫前の選抜を徹底します。特に、えそ病やわい化病の感染株は、見つけしだい株ごと抜き取り圃場に残さないようにしてください。また、下葉からの枯れ上がりがみられる株は、土壌病害が原因となっているものもあります。翌年の苗にすることで感染が広がることも考えられるので、枯れ上がりのみられた株の母株への使用は避けます。

残した株は病虫害防除を継続し、茎葉が伸びた場合は適宜台刈りを行います。また、マルチ栽培の場合には収穫後すぐにマルチをはがし、追肥と土寄せを行います。

次号は9月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は  
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。